

はなみずき

第14号

(平成25年1月号)



明けましておめでとうございます。

院長 林 亨

新しい年を迎え、千里南公園の池の水面は光り輝き病院を照らしています。病窓からは公園の緑がひろがり、遠方に万博公園と太陽の塔、そして時に冠雪する北摂の山々が眺望できます。穏やかな色彩の病室、廊下は心を和ませる、気持ちを爽やかにさせると来院される方々からうれしい言葉をいただいています。

一昨年末に地域医療支援病院の認定を受け、地域の先生方との連携もますます深くなりました。昨年の卒後臨床研修評価機構の更新審査では、無事4年間の認証を受けました。良質な卒後臨床研修病院として評価されたものです。

昨年も地域のみなさんの医療に深く携わることができました。先生方からも多くの患者さんを紹介いただき検査や治療を行うことができました。逆紹介も引き続き進めてまいります。救急医療ではドクターカーで医師が救急の現場に出動するという当院独自のシステムもますます利用されるようになってまいりました。救急患者の救命率も他地域より突出した実績を持っています。

私たちは地域の中核となる急性期病院としての名にふさわしい医療を遂行するため、また一次から三次までの救急をになう救急医療の拠点として、今年も変わらず、皆さんの期待に応えていきたいと考えています。そして済生会千里病院の理念である「心のこもった医療」を実践していく所存です。

今年もよろしくお願いたします。

当院ご利用案内

診療受付時間

- ☆月～金曜日 8:30～11:30 12:30～14:30
- ☆土曜日 8:30～11:30
- ☆休診日 日、祝、12/31、1/1、1/2、1/3(年末年始)
- ・学会・出張等で、担当医師が休診又は代診となることがあります。 予めご了承下さい。

初診の方で紹介状をお持ちでない方には、別途保険外併用療養費として、3,150円いただきます。

歯科・口腔外科、耳鼻咽喉科、心療内科、神経内科への受診は、予約の上紹介状が必要となります。

詳しくは当院ホームページの外来診療のご案内をご覧ください。

医療相談窓口

患者さんやご家族の方々から下記のような様々なご相談をお受けしています。

誰に相談していいかわからないことがあれば、まずは医療相談窓口にご相談ください。

- (1)医療に関すること
- (2)当院での受診に関すること
- (3)病院に対するご意見、ご要望、苦情等に関すること
- (4)個人情報保護に関すること
- (5)医療安全に関すること

なお、医療相談窓口でお受けしたご相談内容でご希望があれば、日時を調整の上当院の第三者委員を交えて相談することができます。

消化器内科、外科、呼吸器内科所属の医師を中心に消化器内視鏡、気管支内視鏡を用い、学会の感染防止ガイドラインを遵守し、安全・安心・楽な検査がうけられるようにスタッフ一同心がけております(気管支内視鏡検査は原則入院検査となります。)

4つの内視鏡検査室と2つのX線透視室で検査・治療を行っています。

平成23年度は上部内視鏡(3,305件)、下部内視鏡(2,245件)、胆膵内視鏡(255件)、気管支内視鏡(99件)、小腸内視鏡(76件)でした。

①充実した機器：オリンパス社、フジフィルム社の、経鼻内視鏡、拡大NBI上下部内視鏡、ダブルバルーン小腸内視鏡、カプセル内視鏡、超音波内視鏡をそろえており、食道～胃・十二指腸～小腸～大腸のすべての消化管に対応できます。

とくに、早期食道がん、早期胃がん、早期大腸がんには、拡大・NBIを用いることで、発見を容易に、治療可否の判断、切除範囲の確定に威力を発揮しています。また、いままで診ることのできなかつた小腸を、カプセル内視鏡でスクリーニングして、ダブルバルーン小腸内視鏡で確定診断できるようになったのが大きな進歩です。ダブルバルーン内視鏡は、術後癒着が著しいような、通常の大腸内視鏡では挿入困難症例でも検査治療が可能で、さらには従来不可能であった小腸へのステント留置も可能となり、患者さんのQOL向上に貢献しています。

②更衣室・リカバリーチェア：検査後の気分不良・経過観察を要する場合に対応できるように、看護師の目の届く範囲に設置しています。

③ペパーミントオイル：上部内視鏡検査では、消化管蠕動があると観察できないことがあり、従来は、筋肉注射で蠕動運動を一時的にとめることが一般的でしたが、ペパーミントオイルを胃内に直接散布することで検査を行えるようになりました。注射をやめることで、痛くない、注射剤による副作用の心配がなくなりました。

④炭酸ガス送気：長時間が予想される治療内視鏡施行時には、従来の空気ではなく炭酸ガス送気を使用することで、術後に「空気でおなかのはって苦しい」ことが緩和されるようになりました。

今まで以上に、最新・安全・安心・楽な検査・治療を行うことで、地域医療に貢献したいと考えております。

内視鏡医師の紹介

内視鏡室部長兼消化器内科部長
堀本 雅祥 (ほりもとまさよし)

【プロフィール】

経歴：大阪大学医学部卒業(1986年)
認定医・専門医：日本内科学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会指導医、日本医師会認定産業医、日本がん治療医認定機構認定医、認定ICD



無料低額診療事業の 相談について(ご案内)

当院は社会福祉法人の病院であり、社会福祉法に規定された経済的な事情により必要な医療が受けられ

ない人々に対して適切な医療を受けることができるように支援することを目的とした無料低額診療事業を行っています。

「急な入院で支払いができない」「介護もしているので、費用負担が重い」「非課税世帯で収入が少ない」「障害者手帳を持っていて医療費助成制度の対象になっている」など医療費の負担ができないといった相談を具体的に解決していきます。また、さまざまな保険制度に関することや医療費の支払いに関する相談も受け付けています。相談は、産科・婦人科の奥にある福祉相談室にてソーシャルワーカーが承っています。

このほか「介護が必要になりそうだが、どうしたらいいかわからない」「がんで治療をしているが、今後のことについて情報提供してほしい」「離れて暮らしているので、一人暮らしの父親のことが心配だ」などの生活に関する相談も受け付けています。

福祉相談室受付時間：平日午前9時～午後4時・土曜9時～12時
(受付状況によりお待たせする場合がありますが、ご了承下さい。)

卒後臨床研修病院評価認定(更新) をいただきました

当院は臨床研修病院という研修医の教育病院ですが、研修医への研修・教育が十分に果たせる体制にあるか、2年前の平成22年8月に第三者の評価機関(NPO法人 卒後臨床研修評価機構)に審査をしていただき、認定期間2年間として認定をいただいております。その後よりよい研修病院として研修医教育に貢献すべく、研修体制、教育環境の改善を進めてまいりました。

この度、本年7月にその認定更新のための審査を受け、これらの改善が認められて認定期間4年間の認定をいただきました。

引き続き、病院をあげて研修医教育に努力していく所存です。

今後とも患者さんのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

医療の提供の結果に関する事項(厚生労働省「医療広告ガイドライン」に準拠)

項目	単位	H23年 11月	12月	H24年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
新入院患者数	人	776	796	766	799	805	790	780	785	864	864	793	867
退院患者数	人	763	873	664	825	822	802	761	838	792	875	806	857
在院患者数(24時現在)	人	8,759	8,845	9,341	8,763	8,870	9,126	8,637	7,854	8,543	9,218	8,975	8,825
1日平均在院患者数(※1)	人	317.4	313.5	322.7	330.6	312.6	330.9	303.2	289.7	301.1	325.6	326.0	312.3
平均在院日数(※2)	日	11.3	10.5	12.7	10.6	10.7	11.2	10.8	9.5	10.2	10.4	11.2	10.1

(※1)退院患者数+在院患者数(24時現在)を暦日数で割ったもの。

(※2)在院患者数(24時現在)を(新入院患者数+退院患者数)/2で割ったもの。

摂食・嚥下障害看護
認定看護師赤井 知香子
認定看護師

摂食・嚥下障害看護認定看護師の赤井といいます。「摂食(せっしょく)・嚥下(えんげ)」とは、難しく聞こえますが、「ご飯を食べる(飲み込む)」ことを言います。

摂食・嚥下障害になる原因はたくさんあります。脳梗塞や脳出血のような病気から引き起こされることが多いです。

「摂食・嚥下障害になってしまうと、もう一生ご飯は食べられませんか？」と心配になられる方もおられるかもしれません。私の資格は、安全・安楽に口から食べることが出来るようになるか？少しでも食べられるようになるにはどうすればいいかを看護師と一緒に方法を検討します。

具体的には、摂食・嚥下障害のある方や機能が低下している方に、食事の形態(大きさや一口量)などを工夫したり、水の飲み方などを調整します。そうする事により、「口から食べる」ということが、「安全」に行えるようになります。援助する仕事が、私の資格である摂食・嚥下障害看護認定看護師です。

また、関わる看護師が摂食・嚥下機能低下について必要な知識が身につけられるように、院内研修の中で、実際に患者さんが食べやすい姿勢や食べ方などを含め体験してもらい、患者さんに提供できるようにしています。

また、「食べられる」ようになるためには「きれいな口」が必要です。口の中をきれいに保てるように、ケアを行っています。口の中が汚れていると食事の美味しさも楽しみも感じられなくなってしまいます。普段から、入れ歯のお手入れや歯の治療などしておくことも大切です。

いろいろな病気で「口から食べられなくなる」ことがあります。退院や転院、施設への入所など、引き続き援助をしてもらえるような協力体制がとれるようなシステム作りを行っていく必要もあります。病院内だけではなく、地域への働きかけも行えば、ご自宅や施設などでも安全に少しでもご飯が食べられるようになると思います。

たくさんの方が美味しく安全に食事ができるように、これからも援助していきたいと思います。

ひとくち
メモ

認定看護師とは

認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野(現在21分野)において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる者をいう。

認定看護師の役割

認定看護師は、看護現場において実践・指導・相談の3つの役割を果たすことにより、看護ケアの広がりや質の向上を図ることに貢献する。

- ・実践:特定の看護分野において、個人、家族及び集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する。
- ・指導:特定の看護分野において、看護実践を通して看護者に対し指導を行う。
- ・相談:特定の看護分野において、看護者に対しコンサルテーションを行う。

認定看護師になるには

看護師の免許取得後、実務研修が通算5年以上。(うち3年以上は認定看護分野の実務研修)→6ヶ月間、認定看護師教育機関通学→筆記試験に合格を経て認定看護師に登録をすることができる。更に5年ごとに更新審査を受ける必要があります。

摂食・嚥下障害看護認定看護師について

求められる技術と知識は、「摂食・嚥下障害看護 摂食・嚥下機能の評価および誤嚥性肺炎、窒息、栄養低下、脱水の予防」と「適切かつ安全な摂食・嚥下訓練の選択および実施」。

本年8月現在の登録者数は、全国で373名。

(参考資料:日本看護協会のホームページ)

えいようだより
eiyo-dayori

年末年始の食習慣

管理栄養士 渡部慎也

新年を迎えるための伝統的な行事や慣習が多い年越しとお正月。年越しそばや、おせち料理は代々受け継がれてきた食文化ですが、地域によって差があり、時代によって変化も加えられてきました。全国のアンケート調査の結果から、年末年始の食習慣の地域性を紹介します。年越しに一番食べられる《日本そば》

細くて長く、切れやすいために縁起をかつぐ理由で日本そばを食べる地域は多く、全国で約8割の人が日本そばを大晦日に食べています。しかし、四国(特に香川県)では、うどんを食べる人の割合が多く、沖縄では、沖縄そばを食べる人が、日本そばを食べる人よりも多いそうです。

めん類以外に決まって食べる料理

大晦日には、その土地や家で恒例の料理を食べる地域が各地にあります。

北海道、東北地方、甲信地方は、年越しに煮物や魚料理を食べる人が多いそうです。これは、《年とり》という、大晦日にご馳走を食べる習慣がある事に由来すると考えられています。

おせち料理の地域性

おせち料理の語源は、季節の変わり目などに祝いを行

う日を節日(せちにち)といい、節日に訪れた神様を歓待するためのごちそうを『節供』と呼んだことに由来します。以前よりは手作りをする人が減り、市販品を組み合わせることも増えていますが、おせち料理は地域ごとに差があり、各地の食文化の独自性があります。

黒豆、かまぼこ、数の子、きんとんは全国的に食べられる事が多いようですが、田作りは東海、近畿地方を中心によく食べられますが、東北や北海道ではあまり食べられないようです。

近畿地方で、あまり食べないものだと、伊達巻や、酢ダコ、きんぴら、煮豆などを、おせち料理として食べる地域もあるようです。

年越しとおせち料理の食文化は、各地域、各家庭で受け継がれているようです。

国際化が進む世の中だからこそ、親から子へ、子から孫へ大切に伝えていきたい日本の伝統的な行事食です。

季節柄、どうしても食事の量や飲酒の機会が増えます。カロリー、塩分、アルコール等の摂取過多は生活習慣病につながります。食生活にもご留意いただき、今年も健康な一年をお過ごしください。

当院の心臓リハビリテーションに対する取り組み

---急性期から慢性期に至るまで 切れ目のない医療を目指して---

循環器内科副部長
兼 心大血管疾患リハビリテーション科部長 岡田健一郎

済生会千里病院では、心臓病の患者さんに対する包括的な診療体制の確立を目指し、平成24年2月に心大血管疾患リハビリテーション(略称:心臓リハビリテーション)の運用を開始し、もうすぐ1年を迎えようとしています。

当院の心臓リハビリテーションの現状および取り組みについてお話させていただきます。

心臓リハビリテーションとは、急性心筋梗塞や狭心症、心不全、心臓外科手術後の患者さんが対象の社会復帰・再発予防を目的として行う医療プログラムのことです。

具体的には、医師、看護師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、事務職員等からなる心臓リハビリテーションチームが運動療法や薬物療法、食事療法、禁煙等の指導を行います。心臓リハビリテーションを実践することで、心機能低下によりもたらされた全身の機能低下を回復させるとともに、生活習慣を見直すことで、再発予防・社会復帰に向けての立て直しを図ることが可能となります。

いわゆる“リハビリテーション”と聞くと、脳梗塞で失った機能の回復訓練などのイメージがあるかも知れませんが、心臓リハビリテーションはそうではありません。前述の医療プログラムを行うことにより、生活の質の改善を行い、心臓病の再発防止をはかり、再入院率や死亡率が減少することが学術的に証明されています。

このように心臓病に対する効果的な治療法の一つですが、本格的に取り組んでいる病院は未だ少ないと言った状況です。現時点では、豊能医療圏(吹田市、豊中市、箕面市、池田市、豊能町、能勢町)では、心臓リハビリテーションを

行うことのできる病院は、国立循環器病研究センターと大阪大学医学部附属病院および当院の3施設しかありません。

さて、当院心臓リハビリテーション室の運動療法では、患者さんにモニター心電図を装着した上で、血圧や心拍数、心電図を経時的に観察しながら行っています。有酸素運動のメニューとしては、主として自転車こぎ(エルゴメータ)、トレッドミルを用いた運動、椅子を用いた運動(チェアエクササイズ)、ステップエクササイズ(踏み台昇降)、ストレッチ運動等があります。

患者さんの心臓を含めた全身状態を十分に考慮した上で、準備運動、有酸素運動、整理運動の順で1時間の運動療法を個別のメニューで行っています。専門のスタッフが心臓病の患者さんに安全で安心して運動療法を受けて頂けるように細心の注意を払っています。

平成24年2月の開設から11月末の時点でのべ約3000人の患者さんに対して運動療法を行ってきました。

運動療法以外の取り組みとしては、心臓病教室を開催しています。心臓リハビリテーションチームの専門スタッフが交代で講師を務め、二十数個のテーマについてそれぞれ毎週水曜日の午前11時半からの30分間講義形式で行っています。聴講に来られた患者さんと我々スタッフとの間で毎回活発な議論が交わされています。

当院は救命救急センターを擁する病院で、日々心臓病の患者さんが救急搬送されてきます。当院に搬送となった後に、救命救急センターのスタッフによる集学的治療により何とか急性期の状態を脱した患者さんに対して、引き続き回復期・維持期に至るまで、病棟のスタッフや心臓リハビリテーションチームメンバーが“切れ目のない医療”を行うことを心掛けています。

当院の心臓リハビリテーションチームのメンバーは多職種から構成されていて、定期的にミーティングを行い、専門職の知識を生かしつつ、お互いに意見交換することで患者さんの情報を共有し、より質の高い医療を行うべく日々努力しています。この“チーム医療”を実践することにより、当院の理念である“心のこもった医療”を心掛けています。

尚、心臓リハビリテーションを受けて頂くに当たっては、当院の循環器内科医の診察が必要となります。ご興味をお持ちの患者さんは、まず循環器内科医にご相談ください。



週1回開催の心臓病教室



スタッフミーティング



エルゴメーター



チェアエクササイズ

当院の活動紹介

～地域の皆さんと共に～

10月6日



当院主催により、全国の救急医療チームが技術を競い合う「第11回大阪府千里メディカルラリー」および、子どもへの救命処置の普及を啓発するための「第1回千里子どもメディカルラリー」を南公園一帯で開催しました。

11月22日



大阪空港で、警察、消防や陸上自衛隊、医療機関など52機関、約470人が参加した「大阪国際空港航空機事故対処総合訓練」が実施され、当院も参加しました。

11月17日



北千里地区公民館主催の市民健康講座に講師を派遣しました。

12月8日



南千里地区公民館主催の市民健康講座に講師を派遣しました。

11月と12月



近隣の中学校の職業体験を受入れました。（中央検査部での顕微鏡体験の様子）



平成24年9月24日より

自動精算機が変わりました。

領収書と明細書の2種類発行されます。
取り忘れにご注意ください。



◎「領収書が縦の様式」に変わります。
※医療費の内容の項目に変更はありません。

◎「個別の診療報酬の算定項目の分かる明細書」
を発行します。
※明細書の発行を希望されない方は、操作画面で
「明細書不要」を選択することもできます。

行事予定

済生会千里病院

平成25年
1月～3月

※変更になる場合があります。
予めご了承下さい。



■大阪府AED・BLS講習会（※要予約）

【日時】 2月13日(水)

【開催場所】 病院東館3階講堂 【お問い合わせ】 大阪ライフサポート協会事務局

06-6370-5883(10時～17時)

■糖尿病教室

【日時・演題】 1月7日(月)「糖尿病と狭心症・心筋梗塞について」

2月4日(月)「災害時の対応について」「未定」

3月4日(月)「糖尿病のまとめ」

※いずれも13:00～14:00

【開催場所】 病院東館3階研修室 【お問い合わせ】 栄養科 06-6871-0121 内線208

■肝臓病消化器病教室(※要予約)

【日時・演題】 2月22日(金)「超音波検査でわかること」 15:00～

【開催場所】 病院東館3階研修室 【お問い合わせ】 なでしこプラン推進室 06-6871-0121 内線603

または当院総合受付2番窓口(先着40名)

■健康講座

【日時・演題】 2月2日(土)14:00～15:00 「いろいろな口腔粘膜病変 ～単なる口内炎?それとも口腔がん?～」

【開催場所】 病院東館3階講堂 【お問い合わせ】 なでしこプラン推進室 06-6871-0121 内線603

■母親教室(※要予約)

助産師が妊娠後半期のマイナートラブルや分娩経過・入院方法について分かりやすく説明しております。
ご家族の参加もお待ちしております。

【日時】 毎月2回(第1木曜日・第3土曜日)

【開催場所】 病院病棟3階ダイルーム 【お問合せ先】 産婦人科外来 06-6871-0121

セカンド・オピニオンについて

他院の病院で治療を受けている方が、当院の医師に意見を聞きたいというご希望にこたえる為に、セカンド・オピニオン外来を行っております。

【お問合せ】

1階総合受付カウンター (医事課)

患者さんへのお願い

- 療養環境向上の為、敷地内禁煙となっておりますのでご理解いただきますようお願いいたします。
- 携帯電話のご利用は「携帯電話エリア」にてお願いします。なお職員が使用しております携帯電話(赤色ストラップ付)は、一般の携帯電話とは異なるものです。

卒後臨床研修病院について

当院は臨床研修医に対する教育病院(臨床研修病院)です。
指導医の指導の下、日々研鑽を積みながら患者さんの診療に当たっております。
臨床研修医に対し、お気付きの点があれば、何なりとご意見をお寄せ下さい。

済生会千里病院の理念

「心のこもった医療」

基本方針

私たち、済生会済生会千里病院の職員は、

- 1.窮境にある人々の医療を積極的に支援します。
- 2.安全で良質な医療を心をこめて提供します。
- 3.医療の透明性とアカウントビリティ(説明責任)に忠実である病院を実現します。
- 4.地域の中核病院として、また救急医療を含む急性期医療の実践により地域医療に貢献できる病院を実現します。
- 5.常に研鑽を積み、最高、最適の医療を追求します。

職員の信条

私たち職員は、患者さんのために、地域のために、心をこめて最高最適の医療を提供します。

個人情報保護方針について

個人情報保護法の趣旨を尊重し、患者さんの個人情報を厳重に管理し、これを担保するために「個人情報保護方針」「個人情報保護規程」「個人情報保護計画」を定めております。

患者さんの権利と責務

(患者さん-医療者のパートナーシップの強化)

- 1.どなたにでも常に人格を尊重し、良質で安全な医療を公平に提供します。
- 2.あなたの病気やその診療について、わかりやすい言葉で詳しく説明をするよう努めています。もし、わからないところがあれば質問してください。
- 3.あなたが、気になること、疑問に思うこと、希望することなど、遠慮なくご相談下さい。
- 4.他の医師の意見(セカンド・オピニオン)や他の医療機関に転院を希望される場合は、おっしゃってください。
- 5.治療方法などをご自分の意思で決めていただけるよう、十分な説明と情報提供を行います。
- 6.診療の過程で得られた個人情報の秘密を守ります。また、病院内での私的な生活が、可能な限り他人にさらされず、乱されないように努めます。
- 7.良質な医療を提供するため、あなたの健康に関する情報をできるだけ正確に伝えていただくようお願いします。
- 8.すべての患者さんが適切な医療を受けられるように、他の患者さんの診療に支障をきたさないよう、ご配慮をお願いします。
- 9.お互いに理解を深め、ともに治療を進めていきましょう。

地域医療支援病院

社会福祉法人

恩賜財団 大阪府済生会千里病院

(編集・発行) 広報HP委員会・経営企画課

〒565-0862 大阪府吹田市津雲台1丁目1番6号 TEL.06-6871-0121(代)

ホームページ <http://www.senri.saiseikai.or.jp/>

■本紙についてのご意見・ご感想などございましたら、下記までお寄せ下さい。

E-mail: hanamizuki@senri.saiseikai.or.jp (右のQRコードからもアクセスできます)

